

# 第1回町田市行政経営監理委員会 報告

第1回の「町田市行政経営監理委員会」が、8月22日に開催されました



【第1回町田市行政経営監理委員会の様子】

日時：2013年8月22日（木） 午後4時から午後5時50分

会場：町田市役所3階会議室3-1

出席者：委員）岡本正耿委員、鶴川正樹委員

石阪市長、鷺北副市長、有金副市長

幹事）高橋政策経営部長、小島経営改革室長、酒井総務部長、水越財務部長、  
松村会計管理者

報告）河本財政課長、高階会計課長

2013年度の行政経営監理委員会では、今年度のテーマである「新公会計制度のマネジメントへの活用」を軸に、町田市の行政経営をどのようにしていくのかを議論していく計画です。第1回目の今回は、管理会計の強化を狙って、「財務情報の見える化」について現状での取り組み状況、及び課題について報告し、議論を行いました。

【発言のポイント】

## 新公会計制度の導入

石阪市長の発言

- 市民の皆さんに、官庁会計を使って、事業の説明をしても市民の皆さんは理解し難いでしょうし、また理解できないのでは、説明責任を果たしたことになりません。市民の皆さんに理解してもらえるためには、共通言語で説明しなければならないし、市役所も業務の中で使っていかなければならないと考えました。
- 組織のマネジメントは納期を守って、PDCAをまわしていくことが重要で、職員が実際に期間の概念を持って仕事するようになるというマネジメント改革を意図しました。

## 町田市における新公会計制度とは

財政課の報告

- 現在、全国の自治体で運用されている会計制度は単式簿記、現金主義会計です。この方式は税金の使い道を説明する点では有効ですが、事業の有効性や経済性を検証するという決算の目的には不十分です。コストの効率性や、事業を進めるために保有している資産をどのように有効活用していくかを考えていける新しい会計制度が必要です。
- 多くの自治体は決算用に、数名の人がその時期だけ担当していますが、町田市は、新公会計制度を導入し、全職員による取組みをしています。そして課、部、事業の単位で財務諸表を作成しています。
- 町田市は、財務諸表の情報に、事業の目的、成果を交えた分析を行い、事業の目的、成果に対し、コストは適切なのか、保有している資産の規模は適正なのかを検証し、課題の抽出に結び付けています。
- この会計制度を更に有効なマネジメントツールとするために、仕組を整備し、職員の育成を進めていくことを課題として、対応を進めています。

鷺北副市長の発言

- 町田市がこの制度でやろうとしていることは、行財政改革のツールとして効果的に活用していくことが目的で、情報の見える化によって、課題を発見し、改善につなげることです。この財務情報と事業の成果を組み合わせることは、各自治体で例が無く、この挑戦は重要なもので、行財政経営改革の集大成と考えています。

## 事業別財務諸表の取組みについて

### 財政課の報告

- 課の単位で有効性や効率性を分析できない特定事業について 143 の財務諸表を作成しました。
- 事業の特性に合わせて、分析を行っていくために、事業類型ごとの分析方法を設定しています。施設を多く保有する事業では、施設の保全が重要であり、資産老朽化比率の分析を行います。年金課や、納税課のようなところは、債権管理が重要であり、債権の滞納や未納決算について分析します。また、保育園や市営住宅といった利用者の負担のある事業は、施設の利用状況や利用者負担の割合を分析しています。
- 事業別に財務諸表を作成することで、例えば廃棄物処理事業で資産の老朽化が分かりました。剪定枝資源化センターの施設は老朽化比率が 15.9%ですが、リレーセンターみなみは 73.7%あり、老朽化対策を早急に打つべきであることが分かりました。また、道路事業では 1,100 億円の資産を持ち、年間 15 億 5 千万円の保全コストがかかっていますが、コスト構造が分かり、将来の維持補修費を推計でき、将来に向けた対策を採ることができます。

### 岡本委員の発言

- 社会現象、組織、自治体でも2つしか比較の方法はありません。空間比較と時間比較です。空間比較はヨーロッパと日本を比較するとか、町田市とどこかの市役所を比較するとかです。時間比較は、データが蓄積されることによって可能になります。データが蓄積されると、今までは見つけようとしても見つからなかったことが見えてきます。そうして、いろいろな変化のチャンスが発見されてくると思います。

## 月次報告による業務の進捗把握

### 鵜川委員の発言

- 町田市が取り組んでいる月次報告は、他の自治体では全く行われていないと思います。月次報告の目的は予算の執行に中止していたものを、アウトプット、活動成果に注力して、すぐにアクションを取っていくということと理解していますが、経営の意識を改革することは大きな特徴だと思います。

## 職員研修等の人事制度のサポート

### 鷲北副市長の発言

- 新公会計制度については制度的なインフラは整備されましたが、人についても整備を行わなければ、機能しないと考えます。また、この制度はこれまでなかなか持てなかったコスト意識の変革を生んでいくと思っています。従って、職員に浸透させなければならぬものと考えています。公会計制度の知識を昇任試験で問うという提案がありましたが、人事制度においても公会計制度の普及を図るという意味からも賛成であり、検討していきたいと思っています。

## 市民への説明の工夫

### 会計課の報告

- 従来の決算では土地、建物は広さで掲載され、いくらなのかは分かりませんでした。新公会計制度を導入して、資産、負債、収入が円という統一の単位で表示され、分かるようになりました。これも前進と思いますが、何を、どのように見せるか創意工夫したいと思っています。

## 見える化について

### 鵜川委員の発言

- 公会計の改革といった時、財務諸表をどう見せるかという話になりますが、その前段として市長のリーダーシップ、方向性の明示及び職員の市長の思惑への理解と、工夫することが重要だと思います。市長と職員が良い関係になって改革が進んでいくのが成功の秘訣と思っています。お互いの信頼関係でよりよいものを作っていくことが特徴になっていると思います。
- 保証する外部監査でなくとも良いので、業績監査を検討していただきたい。監査についても新しい考え方、取組みを検討していただくと良いと思います。

### 石阪市長の発言

- 経営改革の眼目は改革の必要性を皆が理解することであって、更に方向性、対応方法まで皆で確認することです。更に、実行する担保をきちんと整えることが重要です。会計課から研修の話がありましたが、これも担保の1つです。また、成果を評価するシステムも整えなければやりっぱなしになってしまいます。
- 更に大事なこととして、事業を外部の人に説明して、きちんと行っていることを確認できることです。きちんとやっていることが確認できれば、様々な誇りをもつことができることを理解しなければなりません。

今回は、取組み状況及び課題について専門委員、市長、副市長から、一定の評価を得られたと思います。市民の皆さんにより理解されるよう創意工夫を進めたいと思います。

(町田市行政経営監理委員会事務局)